

研究・調査報告書

報告書番号	担当
401	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
<p>Alleged drug facilitated sexual assault (DFSA) in Northern Ireland from 1999 to 2005. A study of blood alcohol levels.</p> <p>1999年から2005年における北アイルランドでの特定された薬物誘発性婦女暴行（DFSA）。血中アルコールレベルの研究。</p>	
執筆者	
Hall J, Goodall EA, Moore T.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Forensic Leg Med. 2008 Nov;15(8):497-504. Epub 2008 Aug 9.	
キーワード	
DFSA、薬物混入、血中アルコール濃度（BAC）、毒性	
要 旨	
<p>血液や尿サンプルで中毒検査を行った犯罪科学北アイルランド（FSNI）データベースから明らかになった婦女暴行事件は、1999年から2005年の間調査された。1999年に30件の中毒検査の要望があったが、2005年には51件となり70%の上昇であった。アルコール、または薬物の占める割合は1999年の66%から2005年の78%に増加した。</p> <p>平均血中アルコール濃度は年によってあまり変化を認めない。1999年で218mg%（mg/100ml）、2005年で217mg%であった。12時間以内をカットオフ時間にした実際の研究対象の数は1999年で9件、2005年で22件に上昇した。非中毒と暴行とサンプルリングとの時間差との間の関連を調査した。事件のうち44から74%が12時間以上を経過していたことが分かった。これらのうちいくつかは擬陰性とされたかも知れない。</p> <p>薬物、単独または他の薬物との混合、の存在は1999年から2005年の間に倍増した。抗うつ剤、精神安定剤、ベンゾジアゼピンそして鎮痛剤、が増加したものである。またそれらのうちいくつかは飲酒量と関連する。</p> <p>これらの所見はある特定の個人や増加した婦女暴行への弱さに対する健康と安全への警告をするのに十分である。さらに妥当な同意を構築するための法的な関わりはこれらの所見にさらに一層光を当てるよう考える必要がある。</p>	